

# みなみかぜ

## 令和5年度学校教育目標

「ふるさとと人を愛し、自らの夢に向かって、力強く歩み続ける子どもの育成」

## 君たちはどう生きるか

何の話だと思われたのではないのでしょうか。これは本の題名です。今から約90年前に、吉野源三郎という人が中学生を主人公に書いたお話です。2017年にマンガ化されて、部数が200万部を既に超えていて有名になりました。

主人公の中学生には、コペル君というあだ名がついています。知的好奇心旺盛な少年「コペル君」と、彼を亡き父親の代わりに見守る教養ある「おじさん」。そんなふたりの心温まるやりとりを通じて、生きる意味を平易に、深く説いた作品です。

いくつかの話が出てくるのですが、ニュートンの有名な話も紹介されています。りんごが木から落ちるのを見て、地球にはものを引っ張る力があるという万有引力の法則を発見したというのは誰もが知っているお話です。

もしりんごがもっと高いところから落ちたらどうなるのだろうと考え、りんごの枝をずっと伸ばして空まで行って、さらに月まで伸ばしていったらどうなるのだろうと考えたり、月はなぜ地球に落ちてこないのだろうと不思議に思ったりするところがあります。

この本の作者は、今の時代はインターネットやパソコンですぐに調べることはできるが、自分で不思議に思ったり、疑問に思ったことを自分の頭で考えて、そこからいかに自分の考えをもつかが大切だと言っています。そして、これからの時代を「君たちはどう生きるか」と問いかけています。



お子さんの疑問力、思考力、課題解決力はどうでしょうか。身近にある？マンホールのふたについて聞いて見るのもおもしろいと思います。

「マンホールのふたは、みんな丸の形をしています。四角や三角などはありません。なぜでしょう。」

子どもの反応

150点：「それなら不思議に思ったからもう調べたよ。」

100点：「それは～だからじゃないかな。」(理由は間違ってもいいです。自分なりに考えることが大切です。)

ここで大切なのは、子どもが考えつかない時です。すぐに答えを教えるのではなく、「じゃあ一緒に調べてみようか。」と言えるといいですね。

道路には必ずあって、登下校の際にも何度も見ているはずですが、そこに？を感じることができるかが大切です。答えは、丸い形のときだけが、吹き上がったたり、浮き上がったたりしても下に落ちていくことがないからです。四角や三角の場合には、向きによって下にすっぽりと落ちることがあります。

AIがいろんなことをやってくれる時代になっていきそうですが、だからこそ自分で問題や課題を見つけ、調べ考え解決していく力がより重要になってきています。